

人間発達学部

子ども発達学科准教授 加藤 暢夫

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
親は親としての人生を、子どもは子どもの人生を～任せておけない 不安要因漂う この時期の親子関係～	2010. 10. 23	富山非行と向き合う親の会 富山聖公会富山聖マリア教会	親離れ、子離れの重要性
The social inclusion of offenders in Japan	2010. 4. 12	アメリカ司法福祉学会 Renaissance Wavery Hotel	日本の子どもの犯罪（非行、触法）に対する法制度の概要の解説と社会的包摂の立場から今後のあり方を展望
「子どもの生きづらさ 親のいきづらさ」豊かさと言しさのもとで	2010. 7～(連載)	HUG NET だより No.10 瀬戸子育て連絡会 HUG NET	地域の子育て最中のお母さん方に向けての子育てにおける留意事項の解説（罵声、体罰、ストレスを避けることなど）
裁判員裁判への根本的疑問 石巻殺傷事件の新聞報道にみる	2010. 12. 18	きずな☆通信 no.12 リレーションシップ・みやぎ	裁判員裁判における未成年の裁判のあり方の諸問題特に公開裁判やプライバシー保護の不十分等諸問題を検討
子どもの裁判と権利条約そして勧告…石巻殺傷事件の新聞報道を素材に…	2010. 12. 25	子どもの権利モニター DCI 日本支部	裁判員裁判における未成年の裁判のあり方の諸問題特に公開裁判やプライバシー保護の不十分等諸問題を子どもの権利条約と関係つけて検討をしたもの
平和な社会生活への模索（覚え書き）加害－被害の関係をめぐって	2011. 3. 22	名古屋芸術大学研究紀要 第32号 頁101～107	犯罪を契機に生じる「加害－被害」関係をJR 尼崎事件（事故）事例における被害側当事者らの動きの将来の「加害－被害」関係を展望する動きを見いだそうとするもの

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項	
授業科目 社会福祉		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要		教材・資料等の概要
保育現場で必要とされる社会福祉知識、しかも、子どもと保護者の困難に対応するために必要な法制度を学生の体験に近づけて講義を行い、必要な資料をテキスト以外で毎回配付し、テキスト理解を図った。		テキスト理解を補足するための資料を毎回配付し、最近の情報については直近の雑誌等の視覚的資料（写真他）を利用して講義の理解を補った。

授業科目 児童福祉	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
児童福祉一般の理解だけでなく、子どもの現実理解（貧困や虐待、保護者の生活の理解）などを深まるように資料作成し、法制度の現実を見つめつつ、子どもの権利に関する認識を深めるように配慮した。	テキスト理解を補足するための資料を毎回配付し、最近の情報については社会福祉同様に資料として配付する以外にも適宜直近の雑誌等の視覚的資料（写真他）を利用して講義の理解を補った。
授業科目 社会福祉援助技術	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
社会福祉援助技術は、子ども理解や家族論、発達論、環境論、医学他の諸専門学問と密接不可分な「技術」論として、諸学問の復習時間を数時限確保し、講義開始当初からの技術演習にはじまり、その上に援助技術の専門的講義と実技演習を配置した。	小人数（20名程度）のクラス編成を心がけ、小講義用に資料を作成し、かつ、再三の実技演習を学生が繰り返せるように行っただけでなく、下地となる諸科学の復習には課題提出を求め、かつ、各時限の振り返りを行えるように感想文等の作成を求めた。
授業科目 ゼミナール I	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
ゼミナール I においては、前期は統一指定図書を輪読、討論をしつつ、人間の発達と環境、個体の諸問題などに初学者として学問的関心を抱けるように配慮し、後期には夏休みをはさんで前期の講読と討論の中で自ら関心を抱いた事項・問題をテーマとして文献学習を中心として、学期末までにテーマに基づいてレポートを作成できるようにレポート作成の作法を初学者として身につけられるように個別的指導を中心としたかわりをと適宜集団としての討論を配置した運営を行った。	子どもと自然 岩波新書
授業科目 ゼミナール II	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
ゼミナール I を土台にして、レポートのつくり方を三回生以後のレポートや卒論作成に活かせるだけの力量を築くように、1 回生時の自らの選んだテーマとレポートを振り返り、テーマを進化させるなり、新たなテーマを選ぶなりして、先行文献学習を重んじ、かつ、実習やアルバイトで子どもに関する体験などを生かして、取り組めるようにした。	よく分かる 学びの技法 ミネルヴァ書房

3. 学会等および社会における主な活動

(2)

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
日本社会福祉学会	通年	学会参加, 地方学会参加など
日本司法福祉学会	通年	学会参加, 地方学会参加など
あめあがりの会	通年	例会参加
六等星	通年	例会参加
ponpe mintare (子ども家庭相談所)	通年	年間を通じて相談事例に対応